

教材・支援機器活用実践事例(特別支援学校版)

	実践名(実践年度)	プログラミング学習(平成30年度)
参加する授業について	教科名等 (該当する教科名等を選択。当てはまらない場合はその他を選択し、次の単元・題材名の欄に記入。)	☐ 国語 ☐ 社会 ☐ 算数/数学 ☐ 理科 ☐ 生活 ☐ 音楽 ☐ 図画工作/美術 ☐ 家庭/技術・家庭 ☐ 体育/保健体育 ☐ 道徳 ☐ 外国語/外国語活動 ☐ 総合的な学習の時間 ☐ 特別活動 ☒ 自立活動 ☐ 各教科等を合わせた指導 ☐ その他の教科 ☐ その他()
	単元・題材名	プログラミングソフトを使って、いろいろなものを作ろう。
	授業の目標	・プログラミングソフトに慣れることができる。 ・自分で考えて、ソフト内のキャラクターを操作することができる。
	観点別学習状況の評価の観点 (教科の特性により設定した観点がある場合は「その他」を選択し記載。)	☐ 「知識・理解」 ☐ 「技能」 ☒ 「思考・判断・表現」 ☐ 「関心・意欲・態度」 ☐ その他()
	自立活動の要素	☐ 健康の保持 ☐ 心理的な安定 ☐ 人間関係の形成 ☐ 環境の把握 ☐ 身体動き ☒ コミュニケーション
学習(集団)の実態 子どもの実態	学部・学年・人数	☐ 通常の学級 ☐ 通級による指導 ☐ 特別支援学級 ☒ 特別支援学校 ☐ 就学前 ☒ 小学生 ☐ 中学生 ☐ 高校生以降 ☐ 特定されない 4学年 8名
	対象の障害	☐ 視覚障害 ☐ 聴覚障害 ☐ 知的障害 ☒ 肢体不自由 ☐ 病弱・身体虚弱 ☐ 言語障害 ☐ 自閉症 ☐ 情緒障害 ☐ LD(学習障害) ☐ ADHD(注意欠陥/多動性障害) ☐ その他
	子どもの課題(特性・ニーズ)	☐ 聞く ☐ 読む ☐ 見る ☐ 話す ☐ 書く ☒ 運動と姿勢 ☐ 計算する ☐ 推論する ☐ 日常生活活動 ☐ 社会性・コミュニケーション ☐ 不注意 ☐ 多動性・衝動性 ☐ 覚える・理解する ☐ 時間的・空間的・人的交流の制約 ☐ その他 児童の好きなパソコンやiPad等の情報機器を活用することで、思考力や判断力、表現力等を高める。
ICT活用について	使用した支援機器・教材の名称 (使用した支援機器・教材の名称を記載。なお、特定の製品に特化した実践の場合は製品名を記載。)	・パソコン ・iPad ・デジタルカメラ ・大型テレビ ・プログラミングソフト(スクラッチ2、マイクロビット、ピスケット等)
	活用のねらい(概要)	A コミュニケーション支援(☒ A1意思伝達支援 ☐ A2遠隔コミュニケーション支援) B 活動支援(☐ B1情報入手支援 ☒ B2機器操作支援 ☐ B3時間支援) C 学習支援(☒ C1教科学習支援 ☐ C2認知発達支援 ☐ C3社会生活支援)
	活用方法	・プログラミングソフトで作ったものをデジタルカメラで撮影し、それを大型テレビに接続して、修学旅行の出発式や始業式の学級会等で他学年の児童や学級の児童に見せる。
効果・評価	ICTを活用した授業での子どもの様子や変容および授業の評価	・分からない時は、教師へ質問するなど、意欲的に学習する様子が見られた。 ・プログラミングをする上で、気になるところは、自分で何度も修正して完成させることができた。
資料	図・写真・表等 (生徒の写真は個人情報公開の確認を取っているものとする。)	 